

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490200140		
法人名	高砂ライフケア株式会社		
事業所名	グループホームゆう・河原田		
所在地	三重県四日市市河原田町1973-6		
自己評価作成日	平成26年9月30日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=2490200140-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=2490200140-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 10 月 23 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にも想起されている「ゆう(you)・・・あなたらしくを大切に」を念頭に置き、無理強いすることなくその方らしい笑ったり、泣いたりのお生活を送っていただけるように努めている。  
地域住民の方や、学生との交流を行っている。(日中のレクリエーション、行事参加、イモ掘りなど)

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

線路沿いにある事業所で、駅舎風の建物とプラットホームにいるかのような看板と屋根がある。開所から1年半の事業所で、方向性をつかみながら形作っていきつと模索している最中である。一人ひとりの利用者が、自由にゆったりと過ごしている中にも、充実した食事や高校生や他事業所とのレクリエーションといった楽しみの機会を作っている。面会に度々訪れる家族もあり、充実した時間を、利用者・家族・職員が共に、大切に過ごしていけるように支援を行っている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム名でもあり、想起される「ゆう(you…あなたらしくを大切に)」を運営方針にしている。理念共有の為、職員出入り口に貼り、出勤時に見るようにしている。	理念の言葉の中でも、「あなたらしく」利用者も職員も個性を生かせる事業所でありたいという思いで、日々実践を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	去年に引き続き、近隣の高等学校と連携し、授業の一環として交流している。11月にイベントがあり参加予定である。地域住民の方の畑で野菜など取らせてもらっている。	近くの高校の福祉科の学生が月3回、工夫を凝らした工作を利用者と共に行い、農業祭にもお客さんとして利用者が参加し交流している。自治会に入っている利用者があり、敬老会に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の高等学校の学生や、ボランティア団体の方達と定期的に交流がある。傾聴すること、行動を否定せず同調することの重要性を学んでいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行っている。地域住民の方にも参加してもらっている。	市担当者・包括職員・近隣の方・家族代表・職員で行い、現状や行事の報告を行い、意見交換の場となっている。参加者を増やし、充実した会になるよう検討している。	自治会長や民生委員へ参加を依頼し、地域に開かれた、共に暮らしているという支え合いを築いていく場になるよう期待する。また、2か月に1回以上の開催を目指してほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	参加者の方たちにアドバイスをもらっている。今後も幅広く参加者に声をかけていく予定である。	電話での連絡や窓口へ出向き報告を行い、運営推進会議時にアドバイスを受けたり、情報をもらうことで協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故対策ミーティングで、再検討を行い、ヒヤリの防止策が拘束にならないよう話し合っている。	事業所内で研修会はしていないが、日常業務の中で職員への指導を行っている。玄関のモニターとアラームは使用しているが、現在、外へ出て行く利用者があるため常時施錠を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に勉強会などを行い、虐待についての理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	経営者、管理者で契約を行っている。契約時に疑問点などあれば説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に利用者様相談窓口を明記し、利用者様、ご家族様の意見・要望を受け付けている。定期的に家族様に手紙やホームでの行事、日常生活の写真を送っている。	家族からは面会時に聞き取り、利用者からは日常会話の中で聞き取るようにしており、職員間で検討して反映できるように努力している。	家族とのコミュニケーションを図りやすくするためにも定期的なホーム便りの発行を行い、より多くの意見を得て、運営に反映させていくことを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に管理者が意見を聞き、代表者に報告している。 また、代表者も参加する会議を開き、話し合う場を提供している。	現在、積極的に提案する職員が少ないが、意見があれば事業所内で検討したり、本部の役員へ上げて反映できるよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も現場業務に携わっているため、業務上の悩みは、その場で話し合う。 悩みを話し合いストレスを溜めないよう親睦会も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望があればヘルパー研修を受けながらの勤務も行っている。 また、実践者研修などの外部研修を順次行っていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ会社で、今年よりグループホームが開所した。行事やイベントがある時は参加して交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントで本人より要望などを細かく聞き、馴染の物を置くなど、居室に安心の空間を作れるように努めている。 また入所初期は重点的にコミュニケーションを図り、気兼ねなく話し合える関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に意見や要望があれば話合っている。また運営推進会議に出席して頂き、直接、不安・要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントや面接で細かく要望を聞きだし、現在どんな支援が必要か見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気や環境を重視して、一緒に食事を作ったり、買い物に出かけたりして信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議や面会の時、必ず近況報告を行い、これからの方針や家族様の要望などを話し合いより良いサービス提供につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様だけでなく、近隣の(本人の)友人の方にも積極的に面会に来てもらっている。	入居時に生活暦を把握し、家族や友人知人の面会も多い。個人的に行きたい場所へ家族と度々出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域密着でお互い知っている方もいるため、孤立させない座席位置を考えたり、レクリエーションなどで他利用者とのコミュニケーションを取る機会を設け、信頼関係の形成に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主治医とも連携を取り、新しい入居先の相談や支援にも努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中の昔話や直接本人からの意見を聞くなどして希望の把握に努めている。見当識上、会話の成立が困難な方においても傾聴を心がけ本人の表情、仕草などから意向を引き出すように努めている。	入居時の聞き取りや日常的には家族と面会時に相談したり、希望の伝えにくい利用者にはいくつか提示した中から選んでもらうように工夫して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や知人の方、在宅時のケアマネジャーから情報を得ている。過去のサービス利用は情報提供所を元に把握。医療サービスの多い方の場合には主治医と相談している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全体でのレクリエーションの時も無理強いはしないで本人の希望を尊重している。自身での行動が困難な方でも、自立度の高い方と同様の希望にも支援を行い、有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで職員が意見を出し合って介護計画のモニタリング、見直しを実施している。現状や変更内容を家族様来所時に話し合い、現実的な介護が出来るようにしている。	基本的には3ヶ月間で、アセスメント・カンファレンス・モニタリングを順次行い、計画の見直しを行っている。家族や主治医へも相談し、全職員が計画過程のどこかで参加し、意見を言うことができるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間共に支援経過に記入するようにしている。記入者が特定の職員に偏らないようにして、適正な介護計画の立案に使用できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の希望により、介護保険外の訪問リハビリ、訪問マッサージ、訪問歯科を利用している入居者様がいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店から定期的に新鮮な食材を届けてもらっている。近隣の高等学校と交流もあり、行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との定期的な往診を基本に連携しており、状態変化の相談、指示も気軽に相談している。また、必要な診療機関には家族の協力を得て受診協力を頼んでいる。	全員が協力医の往診を受け、24時間相談や支持を仰ぐことができ、安心につながっている。協力医以外は家族と職員が協力して通院介助を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在のため上記医師に相談・指示を受けている。必要であれば他医療機関を紹介してもらい適切な診療をして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同上。 協力医療機関を通し適切な医療を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで出来ることを十分説明した上で看取りも行う予定があり、家族様には契約時に話している。他医療機関への転院といった措置を行うなどの支援も対応している。	入居時の説明と共に、状態の変化に応じて、その都度、家族・主治医と話し合い方針を決めている。現在レベル低下の方が2名みえるが、個室に閉じこもらずに最期まで利用者の集う中で過ごしていけるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成や勉強会などで職員の理解に努めている。AEDを導入している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年1月に消防署と合同で消防訓練(避難、消火)を行った。一部の家族様も参加してくれた。今年度は夜間想定での訓練を予定している。	初期消火の訓練は行っているが、今年度の避難訓練は今後行う予定である。緊急時の職員への連絡体制はできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の意思統一を図ると共に、当施設の理念でもある感謝の気持ち、思いやりの気持ち、その人らしく生活して頂くことを大切に支援している。今年9月に会社全体でサマーセミナーを行った。	日常の中で料理や手作業・畑仕事といった得意なことをやっていただくことで、一人一人を尊重している。新人職員に対して、言葉遣いへの配慮と個人情報漏洩の無いように指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者の話を傾聴し、本人の思いを出せるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には個人のペースに合わせた対応をしているが、日常業務に集中してしまう部分もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する際は外出着、帽子を着用して外出を認識して頂ける様に促す。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理好きな利用者様を支援しており、一緒に台所やリビングで出来る事を手伝ってもらっている。楽しみの一つとして食事のメニューをホワイトボードに記入して皆様に見てもらっている。	食事は大きな楽しみの一つであるため、三食事業所で手作りし、市場から新鮮な魚介類を届けてもらい充実した内容で提供している。利用者は盛り付けや片づけを共に行い、職員は検食として1名一緒に同じ食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりに応じてお粥やきざみ食にて対応している。リビングの各机にいつでも飲めるようお茶と湯呑みを常時置いてある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄やうがいができるように毎食後、時間を設ける。義歯は夜間は外して頂き、洗浄剤につける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン表で個々の排泄リズムを把握している。夜間でもご本人様が覚醒すればトイレへ誘導して排泄していただいている。	全員リハビリパンツ使用だが、立位のとれるうちはトイレで排泄できるように支援している。夜間のみ安全のため、おむつ交換やポータブル使用の利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作り、効果的に服薬を実施。散歩や買い物の同行などの運動の実施。ヨーグルト等の排便に効果のある食品も食事に取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に言葉かけをしてスムーズに入浴できる様に工夫している。無理強いはいしない。毎日入浴したい方などの希望に沿うように努めている。	利用者の状態や職員体制により、週2~3回、午後からの入浴となっている。広くゆったりとした個浴槽で、皮膚の保湿の入浴剤も使い、安全のため洗い場にはベンチが設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を一斉に決めずに個々の生活習慣に合わせて入眠できるように支援している。必要な方には睡眠薬を使用。日中の生活に影響しないよう適量の把握に努める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に各利用者の服薬状況の把握に努めている。毎日血圧チェックを行い降圧剤の調整や、排泄チェックを行い便秘薬の調整を行っている。見当識上、可能な限り説明を行い、服薬時の見守りを行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に密接した配膳や新聞取り、花の水やりや調理補助、洗濯干しなど、個々にできる事をやってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様が外へ出たい時は職員とドライブ、買い物、散歩へ行っている。入居者様の誕生日には食べたい物を聞いて、作るか外食へ出掛けている。	事業所周辺の散歩、花見やイベント、他事業所でのレクリエーション参加、日常の買い物が外出の機会、誕生日に職員と1対1での外食や、希望により、なばなの里やスーパー銭湯へ出かけた利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される入居者様にはお財布を渡しているが状況に応じてこちらで管理している。買い物同行時に希望の物を購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思に沿って使用して頂いているが、状況により対応している。(過度の家族への連絡など、本人の訴えをまず把握して対応を考えている。)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節行事の写真、レクリエーションで作成した物などをリビングや居室に飾り雰囲気作りをしている。今後はもっと進めていきたい部分である。	玄関から長い廊下の両側に居室が並び、突き当りに利用者の集う食堂兼居間がある。大きな窓で明るく、家庭的な家具と台所、壁には大型テレビが掛かり、ゆったりとした雰囲気がある。広々したウッドデッキから庭と畑へ下りる事ができ、気持ちよく過ごせる場所である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内リビングで仲の良い利用者同士で雑談等されている。1人になりたい方は各居室で過ごし、ゆっくりして頂くなど、それぞれに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのある物は家族様にお願いして持ち込んでいただいている。事故や危険と思われる事があれば、可能な限り本人の意思を尊重しつつ安全に配慮している。	掃除は毎日行われ、各居室担当者が衣類や物の整理を行っている。大きいクローゼットがあり、棚や椅子と机やラジオや小物等持ち込まれているが、スッキリと片付いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者の身体状況に合わせ日常的な手伝いをして頂いている。自分で出来ることはして頂けるように支援している。		